

～印鑑登録の手続きをする方へ～

印鑑登録をする方は、下表のような手続きが必要となります。

	手続きをする人	必要なもの	備 考
通 常 (印鑑登録証明の発行に日数を要します)	本人	登録する印鑑	本人あてに照会文書を郵送します。届いた文書に本人が登録の意思がある旨を記入し、再度お持ちいただいた時に、手続きが完了します(郵送のため3日程度の日数を要します)。
	代理人	代理人に委任する旨を証する書面(委任状)と登録する印鑑	
お急ぎのとき (当日中に印鑑証明書を発行できます)	本人のみ	登録する印鑑のほかに、本人であることを確認できる書類(①または②) ①一つで確認できるもの 官公署が発行した免許証など、本人の写真が貼り付けられ、浮き出しプレスなどがあるもの。 ②確認に二つ必要なもの 「健康保険証」「年金手帳」「学生証または会社が発行した身分証明書などで、本人の写真が貼り付けられ、割印などの契印があり、生年月日が記載されているもの」などを二つ。	左記の①の「一つで確認できるもの」の例 ・運転免許証 ・旅券(パスポート) ・外国人登録証明書(写真付き) 左記の②の「確認に二つ必要なもの」の例 ・年金証書 ・生活保護費受給に係る証明書 ・介護保険被保険者証

詳しくは、南区役所1階戸籍住民課へお問い合わせください。☎582-2400 内線432・233

見る・知る・遊ぶ

ふるさと⑧

こばやし峠



▲道路開削工事の様子(昭和38年)

清田から真駒内、北ノ沢、盤溪、西野へと至る道道西野真駒内清田線。その南区と中央区の境にある峠は「こばやし峠」と呼ばれています。その昔、北ノ沢から盤溪に抜ける唯一のけもの道だったこの道は、馬も通れないほどの急な坂道でした。北ノ沢から盤溪まで、夏場は二時間足らずの峠越えが、冬場は急な坂と深い雪のため、女性には峠を越えられず、藻岩山を迂回し一日がかりの道のりとなりました。当時、盤溪から北ノ沢に嫁いだ人も多く、往復で二日間も家を空けることができなかつた嫁が、実家に帰

ることができないと悲しんだことから「嫁泣き峠」と呼ばれていったそうです。

地元の人々の市や道に対する陳情によって、昭和三十五年に盤溪から北ノ沢まで約四・二キロメートルの開削工事が開始されました。急な坂のため、ブルドーザーすら落ちることがしばしばで、工事は難航。六年の歳月を費やし、道路が完成したのは昭和四十年のことです。

「こばやし峠」という名称は、この峠に小さな林が多かったことから付けられたとも、道路の建設に最も貢献したという故小林新夫氏の姓をとったともいわれています。

現在は、この峠からの風景を楽しみ、ハイキングなどで自然と触れ合う場として多くの方に親しまれています。

